



発行：岐阜県 観光国際部 観光国際政策課
〒500-8570 岐阜県岐阜市藪田南2-1-1
TEL:058-272-1111(代) E-mail:c11334@pref.gifu.lg.jp



表紙写真：岩村城跡(恵那市)
裏表紙写真：白糸の滝(下呂市)



NEXT GIFU HERITAGE

Timeless Japan,
Naturally an Adventure
GIFU prefecture

NEXT GIFU HERITAGE

岐阜未来遺産

国際指標GSTC-Dを取り入れた 持続可能な観光プログラム

「飛山濃水」の地と呼ばれる岐阜県で守られてきた
荘厳な山々と清流
自然の恩恵を受け、また一方で厳しさを受け入れながら
紡がれてきた営み（歴史、伝統文化、暮らし）を
観光を通じて受け継ぎ、発展させていく
人と人、地域を紡ぎ、未来へとつなぐ新しい観光のかたち
それが「NEXT GIFU HERITAGE～岐阜未来遺産～」です

岐阜県では2007年から、地域が誇る自然や歴史、文化等の資源を掘り起こし、全国に通用する観光資源として磨き上げる「岐阜の宝もの」認定プロジェクトに取り組んできました。

持続可能な観光（サステイナブル・ツーリズム）が世界の潮流となる中、「岐阜の宝もの」の認定基準にサステイナブル・ツーリズムの国際指標GSTC-Dを取り入れ、持続可能な観光の先進的取り組みであり、世界から選ばれる旅先となることが期待できる地域・観光プログラムを認定する新制度「NEXT GIFU HERITAGE～岐阜未来遺産～」を、2022年にスタートさせました。

認定プログラム

- **飛騨小坂**
～自然のめぐみを体験、滝めぐり、湯めぐり～
「清流の国ぎふ」の豊かな滝や温泉を体験できるプログラム
- **恵那岩村の山城・城下町と農村景観めぐり**
八百余年の歴史を持つ三万石の城下町周辺地域の文化や歴史を体験できるプログラム

認定の条件

- 1 **社会・経済・環境面において持続可能であること**
（地域・住民から受け入れられている、直接的・間接的な経済効果がある、環境に配慮している）
- 2 **国内外からの誘客が期待できること**
- 3 **国際的な評価の獲得を目指すものであること**

認定の流れ

- ・認定基準は、サステイナブル・ツーリズムの国際指標GSTC-Dを取り入れたうえで、「地域特性との一致度」「既存観光資源・広域連携の可能性」「地元自治体の支援体制」など岐阜県独自の項目を盛り込んだ28項目の指標を設定
- ・国連世界観光機関（UN Tourism）駐日事務所代表をはじめとする外部有識者からなる認定委員会により、半年以上にわたる書面審査、現地調査による審議を経て認定

岐阜未来遺産

飛騨小坂

～自然のめぐみを体験、
滝めぐり、湯めぐり～

エメラルドグリーンの滝つぼが神秘的な「あかがねとよ」

自然の^{がん だて きょう}大^{おんたけさん}屏風、巖立峡

そそり立つのは、5万4千年前、御嶽山の大噴火によって形成された高さ72m、幅120mの溶岩流の断面。
全長17kmにも至る溶岩台地の広大な森の中には、
地元の人々によって前人未到の地にまで及ぶ調査の結果発見された、
大小200を超える千姿万態の滝が点在している。

地域の誇りである滝の姿を多くの人に伝えたい——
そんな思いから、地元住民が中心となり2006年に設立
されたNPO法人飛騨^{おさか}小坂200滝が歩道を整備し、全
58カ所の滝が見られる13コースを設定した。(現在一部整備中)
それが「小坂の滝めぐり」だ。

小坂に生まれ育ち、滝に魅せられ、NPOの発起人と
なった桂川淳平さんは言う。
「人間は、やっぱり自然にはかなわない。豪雨に見舞わ
れれば、滝の姿が変わってしまうこともある。でも、それ
に我々が抗い手を加えるのではなく、ありのままの姿を
見てもらうことで、自然の優しさだけでなく厳しさも両
方、つまりホンモノを体験してもらう、それが大事」。



小坂の滝を知り尽くす
ガイドの桂川さん

多様な“いのち”の営みに触れる

小坂の滝めぐり

トレッキング初心者から、アドベンチャー感覚でトライしたい本格志向まで、ガイドが同行し安全に楽しむことができる「小坂の滝めぐり」。

最もポピュラーな「三ツ滝コース」の途中で出会う湿原「どんびき平」では、ありのままの自然が四季折々の表情をみせる。

春はモリアオガエルの産卵、夏は色とりどりに咲き乱れる花々、秋は大きさも色もさまざまなトンボたち、冬の雪景色はまるで時が止まったかのよう。

桂川さんからバトンを受け継ぎ、NPOの代表を務める皆越真佐代さんは語る。

「この環境を守るために人の手が必要なのもあるけど、同時に『これ以上は踏み入らない』という境界線を設けること。それが人と自然との共生につながると思う」。



世界最小のトンボ、ハッチョウトンボ



NPO法人飛騨小坂200滝代表の
皆越さん



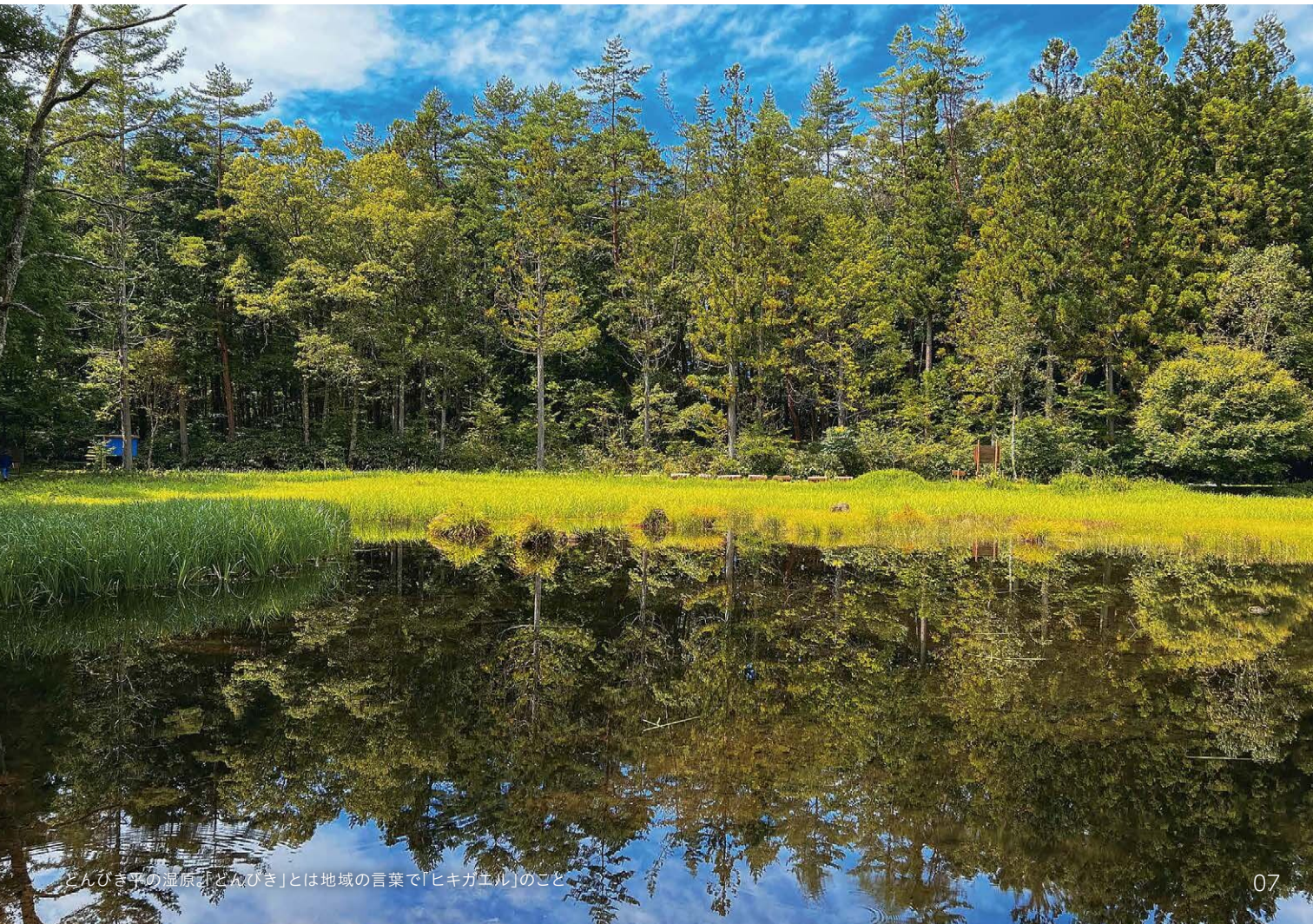
敵立峡から徒歩10分、最初に現れる三ツ滝



日本の滝100選に選ばれた根尾の滝



三ツ滝コースのからたに滝



どんびき平の湿原「どんびき」とは地域の言葉で「ヒキガエル」のこと



凍った滝の柱が幻想的な「氷瀑めぐり」は冬季限定のツアー



鉄分により茶色かった湯が特長の濁河温泉

人と自然との共生

その入口はまず、
四季折々の自然の懷に身をゆだね
遊ばせてもらうこと

夏は滝つぼへのダイブや天然のウォータースライダーを楽しみ、冬は深い雪の森にたたずむ蒼く透き通った氷瀑に会いに行く。春から秋は溶岩台地の森の中でハンモックに揺られながら珈琲と地元の特製スイーツを楽しむ。町から川の流れをさかのぼり、滝に至るルートをめぐるE-bikeツアーでは、点在する“小坂ならではの”魅力に触れながら、人と自然のつながりを発見していく。

こうした魅力的なプログラムを企画するのは、地元出身者が中心となり、小坂を拠点に活動するアウトドアガイド集団「216WORKS(ニジイロワークス)」。

代表の熊崎潤さんはこう語る。

「小坂の人は本当にみんな“よそ者”に優しい。道で困っている旅行者を見かけると誰もが当たり前のように手を差し伸べる。そんなこの町を誇りに思うし、それを次の世代に渡していくのも、僕らのミッションだと思っています」。



216WORKS代表の熊崎さん



スリル満点のシャワークライミング

淹めぐりで疲れた身体を癒やしてくれるのは、
御嶽山の脈動がもたらすもうひとつの恵み

小坂温泉郷、下呂温泉の湯めぐり

小坂温泉郷は、^にごりご^{した}じま^ゆや
小坂温泉郷は、濁河・下島・湯屋と、趣の異なる3つの温泉から成る。
標高1,800mの高地に湧く濁河温泉は、原生林に囲まれた野趣豊かな秘湯。
山懷に抱かれひなびた雰囲気が漂う下島温泉と、400年以上にわたり湯治文化を脈々と紡いできた湯屋温泉は、飲泉も可能な、全国有数の高濃度を誇る天然炭酸泉だ。

小坂の町から電車で約30分の距離にある下呂温泉では、情緒あふれる温泉街の雰囲気と、伝統と格式を重んじる日本ならではのおもてなしに浸ることができる。

滑らかな泉質で「日本三名泉」のひとつとしても名高い下呂温泉は、「小坂の淹めぐり」をはじめとするディープな日本の自然・文化・歴史を体験できる周辺地域をつなぐエコツーリズムの中核地として、国際認証機関Green Destinationsより「世界の持続可能な観光地100選」に選出されている重要なデステーションだ。



溪流を眺めながら楽しむ天然炭酸泉(下島温泉)



高炭酸の源泉そのままの冷泉も楽しめる(湯屋温泉)



下呂の温泉街では街なかで足湯も楽しめる

飛騨小坂の自然のめぐみ、滝と温泉をめぐるモデルコース

1日目

JR名古屋駅

電車で約90分

JR下呂駅

下呂温泉街を散策

歓楽的な賑わいと山里の風景が調和した温泉街を散策。地元の食材を使った素肌美人スイーツ等のグルメと足湯めぐり。



素肌美人スイーツ



足湯でひとやすみ



下呂温泉に宿泊

アルカリ性単純温泉の滑らかな肌触りが特徴の「美人の湯」を満喫。「湯めぐり手形」を使って各宿自慢の湯めぐりも楽しめる。

2日目

JR飛騨小坂駅

電車で約30分

小坂の滝めぐり

小坂の滝めぐり

マイナスイオンたっぷりの森で、まずは基本の「三ツ滝コース」から。滝を知り尽くしたガイドと一緒に◎。夏はシャワークライミング、秋はカフトレッキング、冬は氷瀑めぐりも楽しめる。

小坂温泉郷に宿泊

「飲める温泉」としても知られる日本有数の高濃度炭酸泉で旅の疲れを癒やそう。炭酸泉を使った湯豆腐は、とろけるような食感がおすすめの一品。

3日目



JR飛騨小坂駅

電車で約35分

JR高山駅

小坂町E-bikeサイクリング

小坂の隠れた魅力を探るサイクリング。濁河温泉などの周辺地域へ足をのばせばディープな自然や文化も体験できる。



ランチは炭酸泉を使用した釜泉粥もおすすめ。

問い合わせ先



NPO法人飛騨小坂200滝
<https://www.osaka-taki.com/>



飛騨小坂観光協会
<https://hidaosaka-kanko.com/>



下呂温泉観光協会
<https://www.gero-spa.com/>



岐阜未来遺産

恵那岩村の 山城・城下町と 農村景観めぐり

堅牢な石垣が残る岩村城跡

“暮らすように旅をする” 先人の英知が息づくまち、岩村城下町

遠い昔の日本をタイムトラベルするかのような情景を残しながらも、
今を生きる人々の日常の息づかいが感じられる町並み。
通りを歩けば、いたるところで住民たちが旅人に話しかけ、
気取らないおもてなしで迎え入れてくれる。

岩村城へと続く約1.3kmの岩村本通り。

江戸時代からの歴史ある建物が残る国の重要伝統的建造物群保存地区でありながら、
今も地元の人が日常的に利用する商店や住居が軒を連ねる。



城下町の家々には藍染めの暖簾がかかる

先人が大切にしてきたものを受け継ぎ、守り、
また次の世代へとつなぐ。

“故きを温ね、新しきを知る” 町歩きを楽しむ

町を歩くといたところ目にする「女城主」の文字。

これは、城下町に続く山の頂にたたずむ、岩村城のかつての城主・おつやの方のこと。戦乱の世、病死した城主に代わり、織田信長の伯母でもある妻おつやの方が女城主となってこの地を治め、人々から慕われた。

そんな女城主おつやの方にちなみ、城下町の家々では、各家のおかみさんの名が書かれた藍染めの暖簾を掲げている。

城下町に200年以上前から店を構える老舗酒造「岩村醸造」では、「女城主」と銘打った日本酒が、地元の米と水の良さを活かしながら造り続けられている。城下町の家々に特徴的な、間口は狭いが奥行きが深い造りの店内では、往時の暮らしを感じながら、銘酒の角打ちを楽しめる。

民を守った女城主への想いは、地域の文化に溶け込んで、今も町の人々によって紡がれ、伝え続けられている。

古き良きものを残す——岩村の町の魅力はそれだけではない。長らく空き家となっていた町家をリノベーションし、ゲストハウスとして生まれ変わらせるなど、守るべきものを守りながら、そこに新たな息吹を吹き込んでいく。そんな精神が、この町の人々の中に根付いている。

食もまた、その土地ならではの文化に触れる醍醐味のひとつ。郷土食「五平餅」は、数軒あるお店それぞれに、タレの味や形が異なり、食べ比べも楽しい。

他にも、江戸時代に長崎から伝わった製法そのままの「カステラ」など、素朴でどこか懐かしい、他所にもありそうでない、ここだけの味＝文化に出会うことができる。



かつて酒を運んでいたトロコレールが残る店内で地酒の試飲



空き家をリノベーションして開業したゲストハウス



店先で焼く五平餅



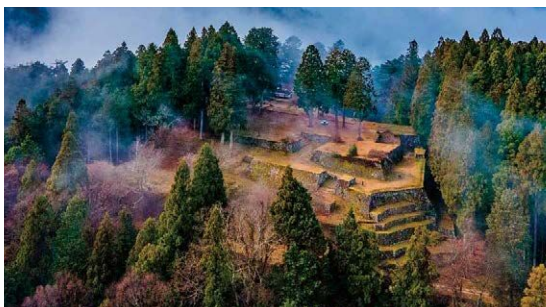
雛壇のように築かれた六段壁

時を超え今も岩村の人々と町を見守る

岩村城跡

日本三大山城である岩村城は、江戸時代に存在した城のうち、最も標高の高い場所（717m）に建てられた山城で、1185年から1873年に解体されるまで、約700年にもわたりこの地に存在した。季節を問わず霧に包まれることから別名「霧ヶ城」とも呼ばれる。その魅力は、天然の地形を巧みに利用し築き上げた荘厳な石垣。中でも最大の見ものは、本丸の手前に築かれた雛壇状の「六段壁」だ。

今は石垣のみが残るが、麓から山頂に向かう間にある石畳や門の跡を歩きながら、防御のために急峻な地形や霧の出やすい気候までも巧みに利用した知恵の結晶が感じられる。



霧に包まれた岩村城跡



「日本一の農村景観」と称される富田地区

四季折々の風情が郷愁を誘う

日本一の農村景観

春には鶯がのどかに声を交わし、夏には水田に青空と白い雲が映え、秋には稲穂が黄金色に輝き、冬には一面が白銀の世界となる——そんな日本ならではの四季折々の風情が“心のふるさと”ともいえる郷愁を誘う。

かつては、この地の住民にとってその情景は「どこにでもある田舎の景色」でしかなかった。しかし多くの人々がここを訪れ、その唯一無二の魅力を口にするのを聞くうちに、当たり前の風景が“誇り”に変わっていった。

展望所からは、遠く三河・尾張との境を成す山々が連なる雄大な風景を見渡すことができる。眼下に広がる田園では、春と秋、地元の小学生親子を対象に昔ながらの手作業による田植え・稲刈り体験が行われている。そうしてこの風景は、未来へと大切に守られ受け継がれていく。



展望所から田園風景を一望できる



毎年、地元の小学生親子が昔ながらの農作業を体験



茅葺き屋根が残る風景



静けさが一層深まる雪景色

恵那岩村の山城・城下町と農村景観をめぐるモデルコース

1日目

岩村城下町を散策

昔の面影を残す「重要伝統的建造物群保存地区」の商家を巡る。名物「五平餅」の食べ比べや、老舗の酒造「岩村醸造」を見学。

JR名古屋駅

電車

電車で約2時間

明知鉄道 岩村駅



地酒の試飲でほろ酔い気分



江戸時代の町家に残るなまこ壁



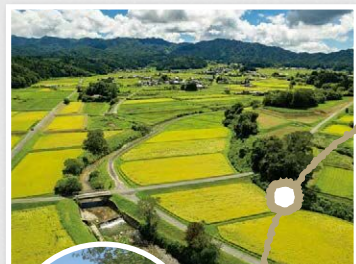
わらじ型と団子型がある五平餅



カステーラ

「日本一の農村景観」の富田地区

昔ながらの農家や土蔵が懐かしい田園をのんびりサイクリング。



展望所からの眺めは圧巻



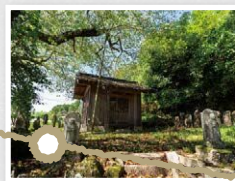
富田地区の古民家に宿泊(五平餅づくり体験)

茅葺き屋根の古民家を再生させた「茅の宿とみだ」で、田舎暮らし体験。炊き立てのもち米に秘伝のタレを塗って炭火で焼きあげる郷土料理「五平餅」づくりができる(要事前予約)。



五平餅づくり体験

3日目



点在するお堂をまわるコースも

富田地区を散策

3つのウォーキングコースを歩いて、四季折々の自然の声に耳を傾けよう。



馬籠宿

明知鉄道 岩村駅

問い合わせ先



恵那市観光協会岩村支部
https://iwamura.jp/



城下町ホットいわむら
https://hot-iwamura.com/

岐阜県へのアクセス



■ 飛騨小坂へのアクセス

中部国際空港	名鉄常滑線・空港線 ミュースカイ 約30分	名古屋	JR高山本線 特急ひだ 約90分	JR下呂駅	JR高山本線 約30分	JR飛騨小坂駅
東京	東海道・山陽新幹線 のぞみ 約95分					
大阪	東海道・山陽新幹線 のぞみ 約50分					
高山			JR高山本線 約35分			

■ 恵那岩村へのアクセス

中部国際空港	名鉄常滑線・空港線 ミュースカイ 約30分	名古屋	JR中央本線 特急しなの 約45分	JR恵那駅	明知鉄道 約30分	明知鉄道 岩村駅
東京	東海道・山陽新幹線 のぞみ 約95分					
大阪	東海道・山陽新幹線 のぞみ 約50分					
馬籠宿	北恵那交通 馬籠線「馬籠」 約30分	JR中津川駅	JR中央本線 約15分			